



大分県には、九州を代表する山地湿原がいくつか発達しています。

湿原は、周囲の樹林や草原など集水域全体の自然に支えられて成り立っています。できる限り湿原をとりまく広い地域で人の手を加えないことが必要とされています。

ここに紹介する猪の瀬戸湿原は、県道が通過しているにもかかわらず今なお良好に自然が残されています。

阿蘇くじゅう国立公園概念図



猪の瀬戸は、湯布院町との境近くの別府市東山にあり、湿原とその周辺地は阿蘇くじゅう国立公園に指定されています。

猪の瀬戸湿原は、北西側の山布岳(1584m)、北東側の鶴見岳(1375m)、そして南側の水口山に囲まれた盆地状の地形に発達しています。

ここでは、湿原やそれを取りまく山々の自然史やそれに生育している多様な生物を紹介いたします。

ASO KUJYU NATIONAL PARK

猪の瀬戸



●1960年代の猪の瀬戸一帯
(鞍ヶ戸尾根から)

昔

(1960年代)

湿原とその周りは野焼きされ、猪の瀬戸一帯はヨシ湿原やススキ草原が広がっていて、放牧や採草が行われていました。



●1990年代の猪の瀬戸一帯
(鞍ヶ戸尾根から)



●猪の瀬戸湿原と鶴見岳・南平台
(猪の瀬戸西丘陵地から)

湿原の

今

(1990年代)

周りの草原にはスギが植林されて野焼きがなくなり、しだいにノリウツギやアキグミなどの低木が侵入して森林化しています。



●猪の瀬戸湿原とスギ植林
(城島高原から)



●森林化していく猪の瀬戸湿原
(城島高原から)



●森林化していくススキ草原
(猪の瀬戸東丘陵地)

●春の猪の瀬戸

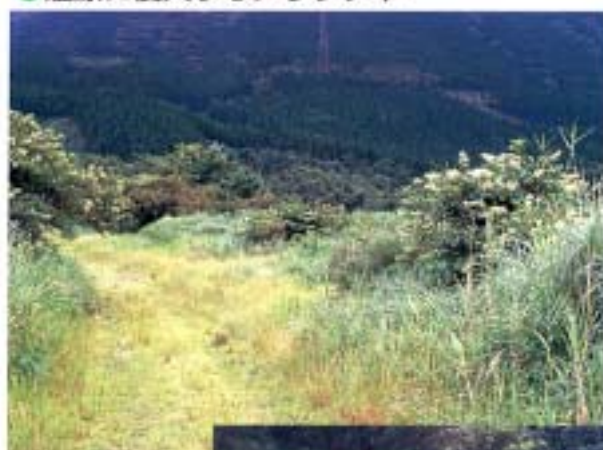


●湿原に咲くマアザミ



●湿原に咲くツクシシオガマ

●湿原に侵入するノリウツギ



四季はめぐる

秋



●日向岳の紅葉

冬



●冬の水口山(上)と水口川(下)

夏



●ヨシ湿原に咲くハンカイソウ